

あしや

第5号



10円



芦屋を詠める古歌

正三位 知家

なにはめのすくもたく火もうちじめり

あしやの里に春雨ぞふる

(新後拾遺集)

少將 内侍

さへかしの芦屋の里の春の夜に

わがすむ方の月はいかにこ

(續後撰集)

伴林光平

瀬戸こゆる汐けのみこそかすみけれ

また下もえの芦の屋の里

(鯁玉集)

僧 涌蓮

ひまもなくかすみにけりな八重ふきの

芦屋の里の春のあけぼの

藤原家隆

短夜もまだふし馴ぬ芦の屋の

つまもあらはに明る東雲

(玉二集)

あしや第五號目次

表紙繪・扉繪・カット……………柴谷幸二郎

わが郷土……………川越清 1

祝福すべき一九五〇年……………猿丸吉左エ門 2

芦屋の漢人(郷土史話)(遺稿)會下山人……………3

魚糶み(隨筆)……………島宗太郎 8

芦屋の名所を探る……………早野臺氣 9

市民必携の書……………ABC講座について……………10

世界平和の推進者……………17

棄権病(實態調査座談會)……………20

緑化運動に寄せて……………23

虚偽の宣傳を見破る理智……………25

圖書館だより……………圖書館だより……………28

近隣児童公園……………西村清三郎……………29

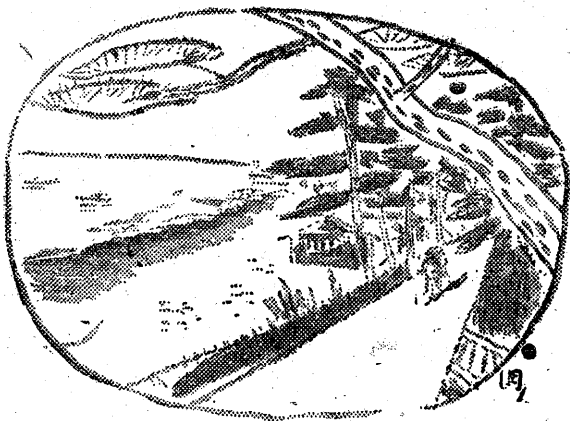
補導員會を終えて……………社會教育課……………30

量水器点檢表復活……………水道課……………30

笑う・結核菌太……………衛生課……………31

編集後記……………32

芦屋海岸風景



わが郷土 清越川

北に高く南面して海に臨む傾斜面にあつて、日當りも風通しがよく、排水が利くから衛生的に満点だ。山から流れ出る清冽な山水は、集めて電気を起し、取入れて市民の渴をいやし、残りには幾すじかの川となつて、貫流、海に入る。人口は民度の高い十萬。市長も議長もみな顔見知り。市街は東西も南北もほど一里、市廳樓上から眺むれば一望に納まる。だからこゝに住むほごの人は、あの町角、この橋をすぐ暇に描かれる。町に廣い街路が通り、美しい緑地と學校圖書館、公民館が適度に点在して、いきいきとした生活感情の中に、掬めば限りなき閑靜がひそむ。それでいて東西に程近き兩大都をひかえているから、近代的都市文化から遅れることを知らない。市街地の四分の三は閑雅な住宅地、残りには商工業區で海港に面し、生産の意欲と活氣はこの地區から湧きあがつてくる。

もし芦屋市に西の兩村が加わるなら、わが郷土はかくも世に比類なき理想的都市を形成し得るのである。

(芦屋市社會教育委員長)

祝福すべき一九五〇年

芦屋市長 猿丸吉左エ門



本年度豫算案は超スピードをもつて全案無修正で可決され、いよいよ四月一日より強力かつ多形に市政を遂行しうる原動力を得たことは、私の人生の一頁をかざる光榮の一章であり、日ごろ、愛市觀念の發露による議決機關の御協力に對しては感謝に堪えないところであります。

多年の懸案であつた合併問題も、遂に大詰に來た觀があらります。問題の重大性にかんがみ、今日まで隠忍自重して參つたのでありますが、幸に本庄村當局ならびに村民各位の理解ある御行動ならびに本山村民各位の絶大なる御好意に對して、萬腔の敬意を表するものであります。

教育文化都市芦屋再建のための諸施設特に學校々舎の増改築、公民館の新設、圖書館の整備等をはじめ、將來、觀

光都市をもつて任ずる本市としては、城山の開發、六甲横斷道路の開設、劍谷靈苑の建設、打出濱ヨットハーバーの完成など着々緒につき、明るい見通しを得ましたことも感激に堪えない次第であります。

民生の安定、さくに住宅對策には萬全を期し、能うかぎり市民の恩恵を多からしめたい所存であります。また、健康都市として懸案の模範的綜合病院建設の構想も研究を重ねつゝあります。

恰も本年は、市制施行十周年の記念すべき年であり、紅葉の秋を中心に展開されるであろう記念の諸行事はもとより、眞に芦屋を愛し、芦屋をよるごび、芦屋を建設するにふさわしい事業を企畫してまいります。

本年こそは、市民各位さまにも祝福し、かつは最も意義ある年たらしめたいと念願するものであります。



芦屋の海岸

からんとを漢人の濱と呼んでゐたのは、この地が山を背にし海に瀕し、長汀曲浦に富みたる所謂「令津」の國である中にもこの芦屋の浦の東には打出の濱として、武庫の山系の一脈が丘陵となつて蜿蜒々南海中に斗出してゐる所である。阪神

國道線中最も狭くびれたる所を打出の濱といへるも同じ意味から

の名である。

さて、この打出の東を津門又は津戸といひ、西を芦屋の浦と呼んだのである。

そもそも、この芦屋浦より西大輪田泊に至る間の津々浦々は渚近くまで船舶を寄せ得る所である。これは河流の押し出すものなく、武庫山を脊にせるため北風を遮ぎるため、自然の良津を形成して居たのである。

應神天皇の朝、漢の阿智使王が投化して大和國高市郡檜隈の地に居住せしめられ、その十七縣の民を移住せしめ、これを吉野郡に居らしめ、今來の郷と呼んでゐた。後に諸方に分布し、各々その職に應じて地方に定任せしめたものであつた。

芦屋の漢人は、最初我國に渡來し、始めて上陸せし思出ふかき土地であつた。その族の大和に入りしもの先づこの浦より東難波の大津に向ひ、河内を経て龍田越にて大和に入つたものである。

和名抄攝津國菟原郡に賀美郷あり、この郷の賀美とは上の義にて、郡の東北端武庫郡に接する地なるべく、されば芦屋郷の東に一郷を作りたるものにて、現今の打出、森具、岩ヶ平の字ある所と思はる。

上世に於て一郷を存置するには五十戸をもつて一郷

と定めたのである。戸とは一籠戸のことで、同じ籠戸の食を取るものを一家族としたもので、古くは大家族制であつたから、五十戸といへども、その人口は頗る多数で、一戸一戸は密集したものでなく、いはば一谷に一戸といふ状態を考へられるのである。されば、この菟原郡賀美の郷は、現今の西宮市の中央より北は名次山の西夙川に沿ふて鷲林寺新田に至り、西して苦楽園より木津山の西谷筋を岩ヶ平に出で、小川に沿ひて南下し濱芦屋に出づる地域と考へられる。

而して、郷の北端鷲林寺新田の北は武庫郡賀美郷と相接するの民族的に交渉のあつたことが思はれるのである。

今より三十年の昔の上の郷といへば、西國街道沿線に森具、打出の二村あるの外山中に岩ヶ平の小部落あるのみにて、他は山谷相交の樵父牧童の他この地を踏破するのはなかつた。たまたま攝津名所圖繪に岩ヶ平村に八十塚あり、山中石窟多しの紀事あるにより、この横穴古墳群の見學に行くもの多く、實際この古墳の數夥しき存在は何を物語るものであるか。上の郷の古代は決して現代の如き寂莫たる一寒村でなかつた。相當の文化人が居住してゐたといふことは、八十塚築造

の手法や、その内部より出土する遺物からしても崇高なる宗教的の考へもあり、優秀なる手藝、美術の思想のあつた民族が、この天然の景勝の地水陸交通に便ある所を擇み、悠々生活を續けてゐたことはこれら古代人が過去の悠遠にして將來も亦久遠なるべき人生を達觀して生を享けたる無限の喜びをたへてゐた形跡を残してゐる。

一、木津山

武庫山の一支脈が苦楽園の所から南走して森具、打出の濱の所で盡きてゐる。今、この一支脈を木津山と呼んでゐるのである。

木津といふ地名は各地にある。まづこの地方の附近にその例を引くならば、明石郡木津、多紀郡今田村の木津（清水寺の南麓）川邊郡の楊津郷の木津の三ヶ所について見るに、明石郡木津、多紀郡木津はいづれも百濟人の來着せし所で、川邊郡木津は猪名川の上流地で、八清水連の祖百濟王族の投化せし所である。而して木津の地には天平の頃行基菩薩の教化によりて佛寺の建立ある等同一の由緒を有する所なり。

而して、多紀郡木津はキツミといはずして、コツミ呼べることによりて木津は來津ミ呼びたるが正しきか

思はるゝのである。其故は日常の挨拶の詞の中に（コバ）といふ言葉をつかうのが耳ざはりに聞えるが、これは（チトお出でなさいませ）といふ場合に（チトコバ）といふので來らばやといふ古語の残りであらう。されば木津は來津であることは了解される。

さて、またこの木津山より北の方武庫川の上流の武庫の上の郷から有馬郷に入るミ唐子といふ地名が多く、唐崎、唐櫃などの名のあ

るのも漢民族の北進した形跡を物語つてゐるのである。

また、木津山が南に走り、更に稻荷山の邊から急に東に折れて香櫛園の所で盡きてゐる。その矩形をなしてゐる所を片鉾といふ地名である。



前賢故實所載。以上大宿禰田村録。

今、この片鉾といふ地名を他にその例を求めると、河内國交野郡渚の地に片鉾の地名がある。淀川の南沿岸地で枚方町の上手である。木津山側の片鉾の地は夙川が名次山の麓を洗つて清水の地より東に流れてゐた頃に、この片鉾の地で一凹地を形成したのである。

漢園

元來、凹地のことを久保又窪の字をもつて現はすが此所ではボコミいつたのである。則ちデコボコのある片鉾は窪地が一方に偏してゐたのである。さて、この地名が河内にある。その枚方の附近は百濟民族の多く居住してゐた所であることより、木津の地に偶々この同名の地のあることも由

るこゝに思はれるのである。

一、夙川

夙川はシユクカハと讀みたるは、この川が宿村に流

れたるより夙の字を音讀せるものに元來宿しゆくといふ名を忌みて守具ミ書き、後また森具ミ改めモリクと呼んでゐるのである。されども最も古には古夙(フルツト)といふてゐた。夙は(ツト)ミ訓じて津戸、又は津門の義の借字である。

津戸の地名は今も西宮市に残つてゐる。今津は今津戸である。津の國と浪速の國との境界地である。現今の西宮市は古の大津門であつた。夙川は則ち津戸川で今の片鉾の地より東に折れて西宮の町に注いでゐたもので、西の宮宮の町は夙川の押し出しの土砂の堆積した地である。

後年、夙川は片鉾の地から南古夙の地へ付け替へたのが今の夙川である。今は天井川となつて杉大の土砂を堆積してゐる。この堆積の様で西宮市の津戸から町を形成した夙川の力の偉大さが偲ばれるのである。されば、古津戸の時代には名次山は渚(ナギサ)で浪際で波着きであつたとすれば、木津が來津で來着の意も明らかになり得るのである。

植物研究の學者が片鉾の地で古生種の芦の珍種を見られたといふ最近の事實も芦屋の地名の古いことも思ひ出される。

近江、播磨、阿波等の國に居る。雄略天皇の時、詔して漢部を聚め、その伴造トモツクリを定む。姓直を賜ふ。その皇城の東に居る故に東漢直トモツクリ又は倭漢直トモツクリと稱す。都賀、山木、志努、爾伎の三子を生む、子孫別れて數十氏ウヂなる。そのうち、阪上氏最も著あまはる。

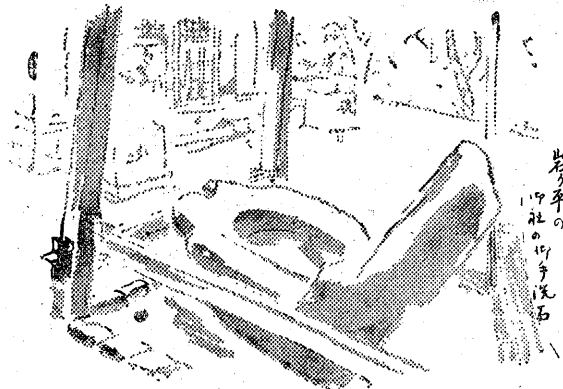
大宿禰姓、宿禰姓、大忌寸姓、忌寸姓、直姓などあり、大宿禰右京に貫す。欽明天皇の時、東漢阪上直小麿じんじん壬申の乱阪上直國麿外三人、天武天皇に従ひ功あり十年、倭漢直連姓を賜はる。十三年舉族更に忌寸を賜はる。廢帝の時老の孫、犬養(いぬかひ)勇武をもつて稱せらる。菊田麿を生む、天平勝寶中持に大忌寸を賜はる。桓武天皇の時右衛士督菊田麿の請により、阪上内藏、平田、大藏、支調、文部(ふみべ)谷、民佐太、山口等十姓忌寸を改めて宿禰を賜ふ。

菊田麿の子大宿禰田村麿を陸奥田村莊に生む。蝦夷征服の大功臣たり。官大納言に至る故をもつて子孫多く、陸奥出羽の介鎮中將軍なり。田村麿第三子淨野陸奥出羽按察使となる。内野を生み陸奥に居る。その孫古哲田村氏を稱し、世々田村莊司たり。淨野八世の孫範政中原氏を貫す、明法博士なり。子孫世々職す曾孫明基高倉天皇の時小判事となり、また中原氏を貫す。

一、芦屋の漢人の一族が延暦の頃、阪上田村麿將軍に伴ひ遠く奥州に移り、安積郡に芦屋の一郷を建てたのであつた。山河幾百里を隔つるも故郷忘れ難きは人情の然らしむる所である。

一、阪上氏の系統

蕃別漢王劉
宏の子延平より出づ。延平の孫阿智使王應神天皇の時都賀使王及び士姓十七縣の人口を率ひて歸化す。大和高市郡檜前村を賜はりもつて茲に居る。その族漸く蕃衍し、分れて攝津、三河、



淨野の弟治部大夫正野五世の孫正任攝津豊島郡吳庭に居り、その後莊屋權治等の氏あり、正野の弟滋野陸奥安達に居り、世々豪族たり。阪上黨と稱す。滋野の弟右近衛は將監廣雄その後裔紀伊に居る先地相賀の族あり、その他阪上氏の族頗る多し。

一、田村麿が桓武天皇の詔を受けて陸奥に赴く時、その軍職にあづかりしは百濟の人俊哲(しゆんてつ)であつた。當時、この人は播磨に住みたりと傳ふ。芦屋の漢人は阪上氏に従ひ、終に居を陸奥に定めたるより、菟原郡賀美郷は舊時の盛を失ひてより一千百余年間、寒村に過ぎざりしもの明治三十八年の頃香櫨園といふ一大遊園地が阪神間に突如として現はれたるより、寒烟草の間徒に狐狸の跳梁に委せし地が熱鬧場裡に化したることあり。尋いで苦樂園の山地開拓の事ありて累々たる八十塚の地も現今は大夏高樓の櫛比せる有様となつてゐる。

實に歴史は繰り返すこの至言であることを此の地の變遷を見て、今更の様に夢路を辿る心地がするのである。

— 本稿は遺稿であるため假名づかいは原文のままとなつてをります。 —

僕は戦時中から、ずっと汽車や電車に乗る時、持物は必ず膝の上に置いて決して網棚の上には置かぬようにしていた。ところが先日友人K氏と京都に行つた時、辨當その他を入れた手提籠と風呂敷包をもつて省線電車に乗つたのだが、恰度、朝の通勤時で腰をおろす席もないので、二つの荷物を棚に上げ吊皮に下り、荷物を監視しながら立つていた。

電車が大阪驛に着いて大勢の人が下車して座席が空いたので腰をおろしたのだが、乗車する人が割に少く、この分なら大丈夫と思つて、荷物はそのままにしK氏と語り合つていた。話のまぎれた時、ついウトウト眠つたこともあつたらしい。京都へ停車して風呂敷包がなくなつてゐるのを發見した。取られるかも知れんという豫感があつただけに、いまいましい氣持で一ぱいであつた。

そこで、魚釣りと魚掴みのことを思ひ合せた。

魚掴みは面白いものだ。掴み取つた魚もさることながら、掴み取る、そのことに言い知れぬ喜びを感じるものだ、してみると網棚の上に乗つてゐるもろもろの品物は恰度水の中のうつつるに魚



魚掴み

島宗太郎

が泳いでいると相ひさしい。

僕の品物を盗つた奴も、この魚掴みのような喜びを感じたかも知れぬが、やられた方は癢にさわるものだ。

そこで、また一つ頭の中を去來したことは、この盗みをする連中を魚と見て、これを釣ること、これも亦愉快なことではないかと思はれる。

悪いことはやつてみようと思はぬが、趣味が高じてくると、魚釣りに相當金をかけるように、電車の中の魚掴み、いや品物掴みに高い電車賃を拂つても出かける奴も出るのではないか。

僕は、品物を盗まれた腹いせから、盗む奴を釣つてやつたらさ考えた。それは、自分が座つた前の棚に、わざと盗人のほしがる様な品物を置いて、ひそかに監視しながら盗人を釣るのだ。きつとかかるに違いない。

品物を掴みさる方の趣味はすゝめたくないが、盗人を釣る方の趣味は一般人にすゝめたい。

盗る面白さ。盗る奴を釣るおもしろさ。同じ面白さにも格段の相違がある。このへんのところは、間違ひのない様にするのが大切だ。

(精道中學 P・T・A 會長)

「前號よりつゞき」 ◆栃木氏邸の門前は所謂水海道である。谷崎潤一郎氏の小説「細雪」(縮版、二九・二七頁)に出てくる路だが、其中の麗人姉妹がここを晴々と歩いていつたあのロマンと、この報恩寺の開基と言はれる天平の行基菩薩を一緒くたにして、ふうわりと眼前に浮べてみることも我ら末世の徒には自由である。

報恩寺というものは今は跡形もない。のみならず傳えられた詳しい記録も亦後世に失されたのである。だから右に言つた(前號)厚の寺域に就ても一應栃木氏の「塩通山莊故事」に掲げられた所に據つただけでも、是が抑々僅かの傳唱や舊字其他を考えて辛うじて成つたものである事は明かである。今の所誰が推測しても先づ此程度に落付くのである。しかし尙他にも涉つて少し補足を試みてみようと思ふ。

塩通山報恩寺、但し報の字を法恩寺とも記して古くこの二様があり明らかでない。開基は行基(西曆六六八―七四九)、當時は六



早野臺氣

堂六十六坊を有し、その結構は巍々として山隈を歴したいといはれている。今日、發掘物から見てもその立派さが語られてゐるのである。行基以後、報恩寺に就て増建に寄與したという業平との密接な關係も言はれている。一方否定もされてゐる。

もとよりそれ程密接だつたかどうかは言えなものでないが、それにしても、この否定には猶議論の積極性は見られないのである。永正年間に入るに細川高國が此地を領することとなる。應仁の亂を過ぎもはや足利末期に移つて何處も峠の巢をつつたよう

に兵亂に明け暮れる世となつていた。報恩寺は既に頽唐しつゝあつたと察せられるのみならず永正八年をむかえて芦屋の鷹尾城に戦いに入つてしまふのである。高國の將瓦林政頼が細川澄元勢との戦に遂に城を捨てて遁走したかと思ふ時期を窺つて再び修築を加へ是に還つて據る。幾度か激しい攻防戦が繰返されて十七八年後の享祿年中に落城しここに完全に参つたわけである。報恩寺はこの鷹尾城の山麓に近接しそのうえ大寺院であつたから、寄手としては參謀の據點とし或は兵の宿舍としたであらうし、随分利用さ

れたことは察するに餘りある。寄手が利用し得ない態勢の時は城方が布陣の用に供したてもあろう。是では兵火に罹つて報恩寺が灰燼に歸さない筈はない成行である。ついに此間寺は悉皆炎上したのである。僅に残つたのが薬師堂一字であるとしている。塔頭寺院乃至末寺のうち法泉寺は唯土地の字として今に名残を留めている。また長福寺というのがある。少くとも寛永年代に淨土宗に改宗(もと言)して中興され、のち元禄五年以降に寺號は安樂寺と易り今存する所である。

然るに元禄五年の文書では右の薬師堂はやはり本院と同時に焼盡したように傳えている。いづれにしても後に再築されているのだから、一時期に失つたことは確かである。是も明らかな年代は分らないが明暦三年よりは下らない頃、報恩寺跡に、一村の力をもつて新しく薬師堂が建立されたのである。

この堂は實働作り瓦葺で二間半四方。攝津名所圖會(寛政年代)所載の圖中の堂はこの時期のものであると思はれる。支配は長福寺がした。かくて維新前後に及ぶともはや堂の腐朽が甚だしくなり其爲明治になつて間なく、本尊薬師如来像を安樂寺に遷したのである。明治四十二年三月一日には堂の北手にあつた若宮社も天神社に合祀され大樹に盡なお暗い此地は全く荒廢たるものになり果てた。薬師堂の殘跡は傾きながら住家として大正初頭、常松という表札が下つていたし傍には石の地藏尊や應譽法山大徳の石塔などが見られたことであつた。この状態は少し尙しすぎた。昭和四年に及んで此地城

一帯は栃木氏の有さなる。即ち現在の邸宅が構えられたのである。昭和十一年には薬師堂は新しく芦屋天神社東手に敷地を選んで建立された。現に存する通りである。

以上は記録が全然ないといつてよい程の事情のもとに報恩寺跡の變遷を回顧してみた次第である。

報恩寺に就てよく引用される文に攝津志の「法恩寺在葦屋村有三好長慶文明年中喜捨文」という一節がある。この文明年中といふことは編者の誤りではないかと思ふ。恐らく天文か弘治といふ所であろう。傍證として打出の「妙福寺權輿並系譜」(同寺所藏)の文書を参照すべきであろう。

◆僕は再び思いを遠く行基菩薩に遡らせる。天平の古、行基が有馬に温泉寺を建立した際、この有馬温泉が塩湯である所から海水が湧き出たので湧出するとした。そして山上に至つて南望するに紀の熊野から芦屋へ虹の如き潮筋があり、芦屋の濱から地下を潜つてこの南海の潮が有馬に出ているとしたのである。芦屋は有馬温泉の湯本と言ひ譯であるから、爾來芦屋の濱を有馬の浦有馬の潮とも稱した。殊に潮の筋は薬師堂の下とし、有馬の温泉寺の僧は芦屋の報恩寺に毎月參籠して薬師如来を拜したと言ふことである。山號の塩通山もこの意によるのである。これは攝陽群談、本朝俗諺志、名所圖會其他にも記されているのだが、僕は出来れば有馬側の古い記録に是を求めたいと考えている。それには報恩寺についてのいくらかの記述があるかもしれぬからだ。しかし此方面に未だ所

市民必携の書

芦屋の實態が一目で判る
「芦屋市勢要覽」

社會科副讀本としても最適

新時代の生活、新教育は科學や統計の上に設置されなければなりません。アメリカでは科學や統計がもつとも重視されています。

市民必携の書として、こんど芦屋市役所で編集した「芦屋市勢要覽」は、芦屋市の實態が一目でわかる良書として好評を博してゐり、また、新教育の資料としても適當だとの評判です。

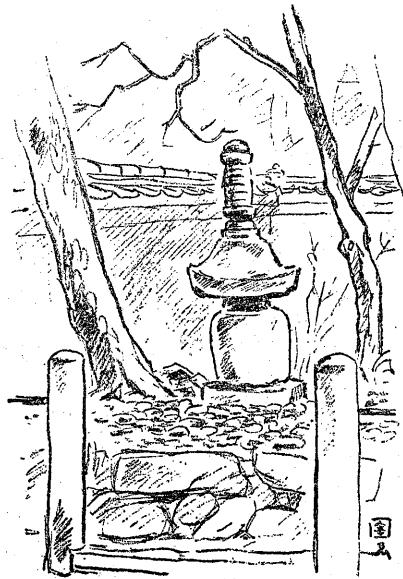
豊富な内容の一部を紹介すると、第一章總説から、生活の舞合、氣候、行政、財政、學校教育、社會教育、保健衛生、水道、交通、土木、復興事業、産業、厚生、通信、選舉、警察、消防、觀光事業、芦屋景物誌の各章に別れ、このほかに、觀光芦屋俯瞰圖、寫眞、統計表などを添付した、上質紙百頁にわたる美本です。

市民必携の書であると同時に、生徒兒童の社會科副讀本として、新時代の教育にはなくてはならぬものです。本市では、自治ならびに教育振興の立場から、特に印刷會社に交渉し、犧牲的な廉價である實費わつかの五十圓で希望者に頒つことにしました。

ご希望の方は、市役所企畫課弘報係までお申出ください。

見がないのである。

所で、この温泉なるものが何故熊野の潮として芦屋の地下を潜つて有馬に湧出すると言つたのであろうか。是は古代の人達の信仰に觸れて考えるべきであらう。元來古代にあつては、(A) 常世の水即ち永遠なる世界から流れてくる水は地



下を通じて山中に湧き進ると信じた、(B) これを汲むと若返ると聖水と考えた、(C) 海岸に湧水する温泉には一種特別の信仰を向けていた、(D) 神代以來紀(殊に熊野)、若狭、出雲などは神祕の國として見られていたこと等が古典に窺える。これらの觀念は既に今日先進によつて明瞭にされ

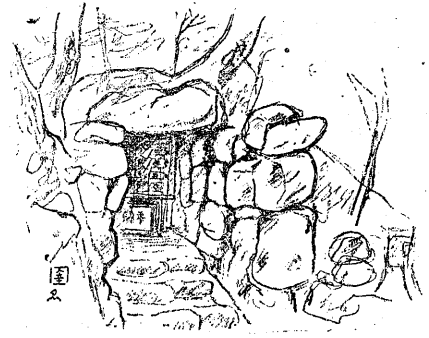
た所である。この古代信仰の定型的な表現が報恩寺に有馬温泉となつて傳説されていることは、これが手近かな場所だけに興味深いのである。丁度奈良二月堂のお水取りに若狹から地下を潜つて湧くと言う若狹井の神秘性に似ているといえる。

この史蹟附近には實際にも高熱の温泉湧出の可能性があると言はれている。明治末年に水道路の少し南方で試掘して中絶したことがあり、忘れた頃また新しい調査の報が話題に上る。嘗て僕は「芦屋で温泉を出せば有馬は止る」という昔の傳えを語つた人のあることを思い出す。併し是は再び傳説の世界に入る譯のものであらう。

◇水道路を隔てて栃木氏と向い合う地点、西山町一・二七附近に大正年代迄は家がなくて、ここに疣の神があつた。それは報恩寺の残した一個の礎石である。圓柱跡の凹みに常に雨水を存して乾いた事がなく、是を疣につけると効があるとして有名であつた。疣いぼという突起物には何となく愛嬌もある。さてこの礎石、今は猿丸氏邸外の一隅に保存せられてゐる。迂闊に見ると茶庭のつくばいと思はれる氣色がある。報恩寺跡からは礎石を始めとして、奈良、平安、鎌倉各時代の古瓦も發掘された。のみならず炎上の形見とも言うべき燼灰も認められた由である。所が更に地下に掘り進めば原史時代の遺物が發見される。是によつて古墳群の上に其のまま報恩寺は建てられたものだと一般に見られてゐるのである。だからこの

國旗が高く掲揚される。何と言つても芦屋住民の愛郷心の的は凡そこの城山のへんにあるかと思はれる程、且暮なつたかしまれてゐる山容である。かつて城址に掘り出された茶釜のここと松若丸の哀史等を話しつつ橋を東に渡つて再度芦屋川から離れる。

◇天神社への参道は同じ芦屋でも氣分が大分違つてくる程快適な高燥地帯である。第一非常に明るい。も一度谷崎氏の「細雪」を引合に出すに「東京と此方(芦屋)までは風の肌觸りからして違ふ」、「第一空氣の肌觸りがこない柔かいことあれへん」などと云う文章が數度繰り返されてゐる。(縮、一四二・二



四三・二七三頁) こういう感概はこの邊の氣分に最も適切である。視界が海へ開いてゐるからでもあらう。海は濱へ出るよりもあべこべに山に來て接する方がなお美しい。「向うに見ゆるは芦屋の濱よ今津通いの蛇がさおる」これは大朝紙神戶附録(大正三・六)「縣下の古謡」に出た俚諺である。蛇

寺の跡は原史時代と歴史時代とが重なりあつた貴重な史蹟といふべきである。

◇僕ら五人は東え路を歩き出す。初めの四つ辻に立つてあのクロガネモチと同じ邸内の、しかも猶それより一〇米も高い巨樹「芦屋の松」に視線をむける。その尖端の枝は遠い雲のなかに驅けのぼつていた。これは天神社の山からしても西に黒く抽んで見えている松である。巨樹として天然紀念物に指定されてゐる。

◇芦屋川の開森橋にひよつこり出た。この西詰、西山町一。沙見櫻一樹が近年までここにあつたが枯死して今は無い。それは彼岸櫻であつたから毎年いち早く咲いた。京都圓山公園の元の枝垂櫻を小型にしたような樹であつて、仰ぐと花の傘が大きく頭上になれた。客を呼ぶ床凡の毛氈はその下に眞赤の沙見櫻であつた。初代の「沙見の櫻」は「沙見の松」と共に嘗て報恩寺にあつて在原業平の手植といはれてゐる。この「沙見」の意味は熊野よりの潮筋を見た神諭に由来して解するのが穩當だと思はれる。

◇同じ開森橋上から圓柱形の鷹尾山(標高二七〇米)を近くまともに見る。これはまた芦屋に突起した一つの疣いぼといふべきである。鷹尾城址はこの山の上の、櫓木に隠れたところにある。俗には城山とも言はれてゐる。鷹尾山の方は鷹の尾の形状に似て末廣がりだから名付けられたのである。近時山頂に

は汽船を指している。

◇芦屋天神社、東芦屋町二六。祭神は天穗日命、兵庫縣神社資料其他によると十五座の神々が相殿となつてゐる。本社西手に末社の出雲神社がある。創立年代は詳でない。公報「あしや」第二號「芦屋風土記」に述べたように此主神は凡河内又は土師の古氏族に關係があるべきであるから、由緒は非常に古いであらう。卒然として見る社殿が新しくも新しい連想を阻げられるが、實際は式内に敷えられてゐるよかつたのではあるまいか。傳唱によると天穗日命がこの山に天降られたと言ひまた日夕出雲の方を拜された所と云う。それゆゑ天つ神の意でここを名付けて天神山といはれた。例祭は十月十六日。往古以來明治十五年頃迄は此日「おさう」といふ神事を行つた。是は儀式を正して神酒及び「きやうつくれ」を供えるのである。一般氏子の家々は甘酒である。三月十七日には山祭を執行してゐた。

境内には横穴式の一古墳(古墳時代末期)が完全に存してゐる。羨道は南方に向ひ玄室は奥行約二米。成人が小腰を屈めて立つことが出来る。もとより既に遺物はない。今、水神祠としてゐる。

◇天神社神域中には猿丸大夫の墓と稱するものがある。この神社そのものを猿宮ともいつていたのである。墓は石造寶塔形。古韻の掬すべきものがある。何等の刻銘をも有してないので果して大夫の墓か否かを證することが出来ない。尙仔

細に見るがただ相輪下部の請けはな蓮華瓣の鑿の跡が見られるのみである。台座は現在のところ〇・二一米の高さに土に据えられ其上の塔身から相輪の寶珠の先端まで高さ一・三二米ある。大正年代には同じ神域の出雲神社北方約二米の所にあった。後現位置に移されたのである。

猿丸大夫の墓はもう一つ阪急芦屋川停留所の附近、東芦屋町一六四の猿丸家墓所にもある。花崗岩の自然石碑で高さ台上より一〇九米、幅〇・六四米。これが自然石の台座に建てられている。六字の名號を中央に彫り向つて右に猿丸、左に大夫とある。風化甚しく文字は殆ど讀み難くなつてゐる。後の便りの爲に刻字の位置を附記して置くが「猿」並に「太」の字の上邊は〇・一九米強の高さに「丸」「夫」底邊は〇・三米強の高さにあたる。寛政の頃に此邊より發掘された如くだとしている。この墓は恐らく三百五十年より以前に遡ることはあるまい。

芦屋には猿丸大夫の裔と言はれる芦屋の著名な舊家猿丸氏がある。この家系は祖先より幾代も猿丸大夫の名を繼承したとあるから、此猿丸大夫の墓と言うのは後の何代目かの猿丸大夫であるかもしれない。後にも猿丸大夫が名のられたことは一例を挙げれば天正十七年五月十七日附の文書がある。これは芦屋川の水を早苗田に引く際、山路之庄と水の割當を定めるため山路庄年寄畑彌右衛門に宛てたもので、芦屋村年寄中として左京介、猿丸大夫、太郎右衛門、與左衛門等（各花

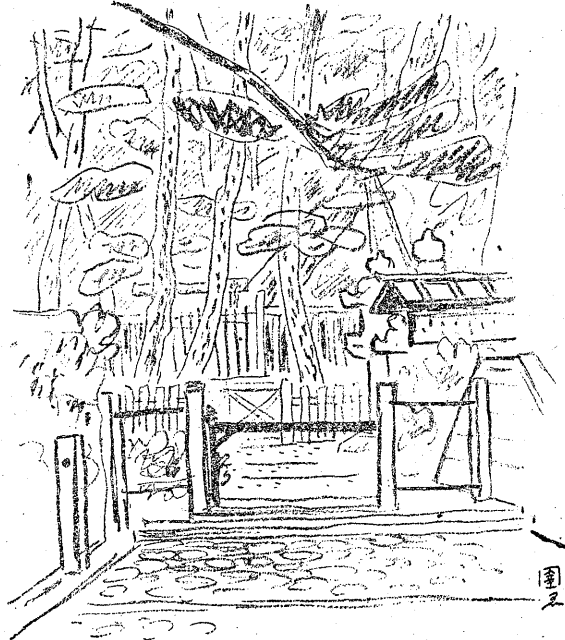
押）の名が見えていることである。

また此自然石碑に就て今ひきつは子孫が始祖の猿丸大夫の追福を祈つて後世建墓したさいう、ことあり得るであらう。

◆「奥山にもみち踏み分け鳴く鹿の聲きく時ぞ秋はかなしき」の歌によつて猿丸大夫ぐらい世に知られた名はあるまい。その反面猿丸大夫の傳ぐらい又世に知られないものもない。大夫に關しては古今集真名序に「大友黒主之歌古猿丸大夫之貌（イ次）也頗有逸興」といふ一節があるきりで、假名序の方にはその名が出て来ない。どんな人物であつたか何ら知るさうがない。又知る途もない。それにも係はらず三十六歌仙中の一人であり百人一首中の歌人である。大きく浮び上つてついに消えない名であるから不思議な存在である。其系譜や時代に就ての所傳は數説あるにしても何れも詳でない。墓さえも諸國に數箇所あるといふ始末である。生存に就ては一般には奈良末期から平安初期の間と見られているやうである。これも亦推定である。三十六人中に猿丸大夫集なる和歌集一卷があるが、歌數は四十九首乃至傳本によつては三十七首三十五首である。内容は萬葉集、古今集の讀人不知の歌が多く見られて明らかに猿丸大夫の作と判定し得べきものがないのである。次に百人一首の「奥山に」の詠作は古今集中の歌であつて、集には讀人知らず即ち作者の名の附せられていない形で出ている。だから直ちに大夫の歌とさきめる證明を缺いているのである。この「奥山に」の歌は大夫以外の人の作か

或は大夫が名を現すのを避けていたか、其の何れかと言ふべきである。徳川期の尾崎雅嘉などは百人一首一話の中で「奥山に」の歌を猿丸大夫の作ではないと考證している。内海順昭氏はこの流の全くの否定はせずに、先づ大夫の作でないを斷定するには古今集の歌の配列の仕方や諸本の異同に注意すべき餘地のある旨を述べてなられる（京大紀念論文集）。かように猿丸大夫の存在が後世に漠然としている所から大夫を單に傳説の人とし抹殺する諸家もある譯である。

併し猿丸大夫を全く否定することは誤りと言ふべきである。翻つて芦屋の猿丸氏の系譜及び他の數書に従えば厩戸皇子の孫、弓削王が猿丸大夫と變名して山川に隠れたさいうことになるのである。このやうな隱逸的な態度であつたから従つて傳記も残らなかつたと言え言え。古今集序はたゞ短文であつても種々な意味で猿丸の存



圖五

在を語つてゐるものと思ふ。のみならず一應歌の批評はしているもの猶凡百の歌人群を抜いた一流歌人としての扱いをしている如くである。後になつて公任が三十六人集に加えていることも矢張り此意を反映しているに外ならない。

高崎正秀氏は猿丸大夫に關して「物語文學序説」「六歌仙前後」の二著作の中で民俗學的に種々未だの世を開拓せられた。これらは見逃すことの出来ない高著である。ただ少く注意すべきことは、民俗的方法論の成果は結局對象に就いての民俗學的意義そのものの闡明に置かれるであらうから、なお猿丸大夫なる一個の實在人に就ては何程の關係が持てるか、おのづから別な語となるであらう。併しそれにも係らず民俗學はまた全く無縁でないと言ふ微妙な相互關係が横たわるのであらう。昨廿四年には僕が正倉院文書中に逢着し得た次の記録があ

る。

佐伯淨萬侶啓
進上紙二百張

右爲諭珈論書寫奉且欲令打得今以狀付栗前乙足申上
天平十九年二月十一日

(中略)

二月十二日返送奉

殿使占部淺萬侶 八十張

(下略)

佐伯淨萬侶が諭珈論を書寫する爲に料紙を寫經所に送つた時の書狀で右の日附がある。ここに猿丸の名が見られる。今ただちに猿丸大夫に關係があるとする事は無謀であるが、なお看過しがたいので備忘を兼ねて記して置く。所在は詳しくは正會院文書續々修第四十巻第四卷。この「占部」の二字は甚だ含蓄があるものと思はれる。

◆芹屋天神社の東に隣接した東芹屋町二三には薬師堂がある。前出報恩寺址の西の坊にあつた薬師堂がここに復興されたのである。有志が發願協力しその一人猿丸吉左エ門氏は敷地を寄進して復興されたのである。昭和十一年に落慶式が行はれた。本尊は六十餘年間預けられていた東の坊なる安樂寺からここに遷座されたのである。報恩寺當初から傳はる古い由緒の薬師如来であつて、古來の秘佛。作者は不詳。傳によれば御丈、台座を含めて約九寸。木彫立像であると言ふ。三重の

面の縦、直径は五寸といはれる。思うに可愛らしい小柄の方であつたかと思はれる。これは有難いことなのであつて、この内親王の御實子である在原業平にも及んで何か具體的な感懐を伴つてくるのである。この母子間の親愛の情はまことに美しく濃かであつたと思はれる。晩年の歌の贈答に就て清少納言もこれを「思いやられる」と枕草紙に嘆稱している。願文中に平子(内親王生母)の冥福に併せて我が子兄弟の行末の榮え一家の安和を庶つているが、當代三筆の一人を撰んで依囑し多數の手形を押して至心に祈つた狀がしのばれる。(此時業平は九歳であつた)。

願文は嚴密に逸勢の筆であるかどうが、學者間に議論の存する所であるが先づ逸勢であると言ふことになつてゐる。逸勢といへばここに直ちに思い至ることはこの願文の年(天長一〇)から九年を経て當時彈正尹であつた阿保親王はこの逸勢を摘發している。それは逸勢が伴健岑と共に藤原氏の對抗を計畫して事露はれたのである。承和の變といつてゐる所で親王自身も仲成薬子の弘仁の變に座して太宰員外帥に貶せられたことがある。また太子高岳親王を廢することがある。阿保親王が敢えて請うて我子に在原氏を賜つて臣籍に居らしめたのにも深い配慮があつたと思はれる。まさに政治上に大きく擡頭してくる藤原氏のまるで不可抗の如き壓力を感じながら複雑な心境と事態との中に處世してゆかねばならぬのである。こんな苦境を幼時から見聞きして育つていつた業

厨子に納められてある。報恩寺の歴史を考へる場合必ずこの堂に思い及ばなければならない。鎮西深澤土宗。現住は佐伯禪心尼。この薬師堂の北裏手には地藏尊も當寺中興法山大徳の石塔も又疣の神にあつた石の手水鉢も打ち揃つて元の地から移されて來てゐる。

◆僕らは歸路を阿保親王御墓の方にさつて琴ヶ丘町の御墓に拜した。いつもながら清寂の境である。周圍約三五〇米、面積二五〇九坪、圓墳であつて封土の周圍三方に隴がある。この隴の修理中に銅鐸漢鏡その他が現はれたのであつて時は元祿年間のことと言はれる。現在市内の親王寺に其一部が保存されている。これらに就て梅原末治博士の紹介文(考古學雜誌第一三卷二號)があつて元祿の時、同伴出の遺物の數量は何程あつたかを今日より知るを得ないが「濤瀆關帖」(吉田履一郎氏藏)にみて出土鏡は十面であつたことを述べられてゐる。この間の消息及び其他の史實に關して、故天王寺谷勘大夫氏は打出史話(昭和一五)を著し流石に生前、御墓に奉仕されただけに出土品其他の圖版をも加えられ僕らを益する所が多い。詳細は同史話に譲ることとする。

親王の妃は伊都内親王である。書道史上に名高い橘逸勢筆「伊都内親王願文」(元水谷川男爵藏、現在御物)——公報あしや第二號参照——には内親王御自署の筆勢に接することが出来る。普通の寫眞版のものには見られないが、内親王の朱の御手形が二十四個押されてをり尾上八郎博士によるご其御掌

平である。時代の急激の情には深刻なる因由があつた。この爆發が業平の體内に詩人となつてゐるのである。

御墓の御拜所には毛利侯から寄進した四對の石燈籠が今もあるし附近には維新前に同じく毛利侯が陣屋を設けたことがある。昔の風習としてはこの打出の海を行き交う多くの船は親王寺の前を過ぎるとき、必ず帆を下げて通ることになつていたのである。

芹屋の名所を探る五人は此處で解散をする。今日の行程は特に順序を選んだではなかつた。既に出發の時から靴の方に委せてあつたのである。

ABC講座 について

興味を持って半ば成功
世界の人々と交はる
ために外國語を學ぼう

▼……教育、科學、文化の窓を通して、世界の人たちが握手し合ひ、眞に平和の世界を作ろう——というのがユネスコの精神です。世界の人々を親しく交はるためには外國語を學び外國語に慣れることが必要です。
▼……外國語にもいろいろあり、何國語でもよいわけです

が、比較的利用度の高い英語を選び、その普及につくしてみたい。私は、こう考えてABC講座を開講したわけです。

▼……このABC講座は決して會話を學ぶためのものではありません。會話は、のちに外人の方が来て教えられたいと思いますが、私は語學教授の根本原則によつて、英語の基本をしっかりと教えてみたいと思つています。

▼……英語を學ぶ方法としては

① hearing. (聽く)

② speaking. (話す)

③ reading. (讀む)

④ writing. (書く)

以上四つの段階を踏んで勉強してゆくのがよろしい。だから私はまづ一番に「發音」の根本原則から教え、「聽きかた」「話しかた」を十分練習します。つまり、耳から入つて口に出る——この學習方法を採用します。このhearing, speakingが出来てから、readingに進み、さらに「會話」が出来、英文が書けるようになるのです。

▼……今までの英語學習の缺点是、むづかしいテキスト、例えば三年も経てばシエクスピアを教えるが、そんな教えかたは、あたかも大きな家を建てるのに、基礎がぐらついているのと同じでダメです。基本が出来ていないのに飛石のように飛んでいつて、どうしてほんごうの英語が學ばませう。

ユネスコ相互連絡のため、一大ユネスコ會館の建設が叫ばれ始めまして、ユネスコ會館を以てその地方、都市のみならず世界各国との間の國際的文化の中心たらしめする意向の強い時、幸い觀光の立場からも又國際的見地からも山紫水明の地、阪神間の持つ文化的意義は大いに認められて居ります。

されば打出濱に國際ヨットハーバの設置を見るに至つて國際觀光の檜舞臺に名を連ねる芦屋に生れた芦屋ユネスコの特異性からみても最大の理想として芦屋の地へ國際ユネスコ會館を設置したい慾望が起るのは當然でありまして、茲に最大理想を大きく胸に描いて、當協力は世界平和の推進者として、又日本の自立、國際復歸への努力を倦まずたゆまず、辛棒強く続け努め度いと思ひます。この夢が實現の曉は、芦屋ユネスコの名は國內は勿論世界でも名だたるものとなつていくでしよう。

▼……そこで私は、前進ないそぐ方法はやめて、逆に後え戻る教えかたをします。これは一見逆のように見えて、實は一番効果のある方法です。時には、かぎやくを交えて興味を呼び起すように試みます。興味をもてば半ば成功です。

▼……この原語教授は、私が長いあいだ研究している學習方法で、自由奔放の如く見えますが、これには相當の經驗をもつています。休まず、勉強して戴けば、半年もすれば相當の基礎が出来ます。

(芦屋高等學校長阪部由松氏談)

UNESCO

世界平和の推進者

芦屋ユネスコの構想

ユネスコの理想が世界恒久平和と人類の安寧にある時、日本ユネスコの歩む途も又自ら之でなければならぬ。されは各國とのユネスコ情報の交換や、ユネスコ會員學生の交互派遣は文化、科學、教育及教養の凡ゆる分野に於て重要であります。日本國內に於ても既に

この夢を、理想を一日も早く實現し、又市民の皆々様に何らかの形でユネスコの存在意義を明らかにするため、我々活動委員初め役員、會員一丸になつてこの目的に向つて活動を續けています。何卒皆々様の絶大なる理解と支援を贈られん事を切にお願い申し上げます。市民生活、人間生活と結び付いたユネスコの動きに我々は又重点を置かねばなりません。

多難なりし二〇世紀前半も終末を告げ二〇世紀の後半が訪れました。一九五〇年の最大の話題は人類の平和と安寧を求める各國民の演ずる平和の戦でありましよう。原子力應用も各方面に亘つて著しい進歩を遂げるであらうし、この原子力の平和的利用、又は人類の福祉安寧の爲への利用價值が、恐らく世界注視の對日講和と同等以上の重大事とならう。

(芦屋ユネスコ協力會事務局長 古林秀雄)

實地調査座談會

とき 三月二十三日午後五時—八時

ところ 佛 教 會 館

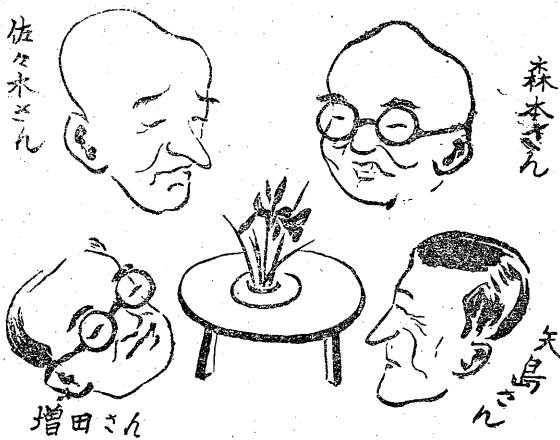
出席者 佐々木清次氏(選挙管理委員会委員長)

森本梅太郎氏(選挙管理委員会委員収入役)

増田稻三郎氏() 民生委員)

森本さん

夫島さん



非常に効果があつた
學童からの啓蒙

三十以下は棄権病?

矢島 末藏氏() 民生委員)
北口 正道氏(庶務課長)
朝日、毎日、大阪、神戸、各新聞記者
(選挙管理委員会事務局側) 石垣書記長、
岡本、倉谷、各書記

石垣 御多忙中御集り下さいましてありがとうございます。では早速始めます。先ず委員長さんの挨拶から……

佐々木 今何時時の選挙にも棄権率の高い第二投票区(六麓、岩園、朝日ヶ丘、東山)と第七投票区(大樹、茶屋、業平、公光)を住宅地域と商業地域の代表として、去る一月に行われた、参議院議員補欠選挙の棄権者の實地調査を實施しましたが、その結果を事務局で集計した統計表をお手許に差上げてありますから、これを基礎として棄権者の實態を検討出来る六月の参議院議員改選の際の棄権防止対策を講じたいと存じますので各位のキタンのない、御意見を拜聴したい。

石垣 この度の實地調査に際し、實地調査に當られました委員長さんと増田委員さんから御感想なり御意見をどうぞ。

選挙棄権者實地調査座談會

増田 私の調査した處は商業地区であつた關係上投票しに行こうと思つても顧客がくればつい行けなくなる。選挙より商賣可愛いということになる。要するに政治意識が低いからだと思つたら、もつと平素に啓蒙する様にして選挙に関心をもたせばもつと棄権は減少するだらう。

佐々木 増田さんと同様に感じた。私の方は、住宅地域許りだつたから幾分異つた点もある。或る婦人は、女は政治のことが解らないから選挙することは、かえつて弊害があると思つたら棄権したといつておつた。日本婦人の参政権は自ら獲得したものでなく與えられたものだからこの様に婦人の政治意識は低調である。この方面の政治教育の必要を感じた。又、三十才以下の婦人に候補者に適當な、人物がないという理由で棄権したという意見も相當あつたが、これ等は主人がいうことに同調しておる様に見受けられた。永い間の習性で主人に引きずられるのも無理はないが、自分は自分で主人が棄権しても選挙はするといふ様に仕向けてゆかねばならないと思つた。候補者を知られば其の所属政黨を考へて貰いたいと思つた。六麓町地区では主人は早朝出勤するため出来ない。主婦は、留守番がないから投票出来ない、休日なら交替で投票出来るという。

政治意識の昂揚を

増田 政治についての関心を家庭に持たすことが必要だ。一

月選挙の時は學童を通じ各家庭を啓蒙したが學童の動きが停止したり制限された場合のことを考え、一家の主人に政治意識の昂揚を、選挙に関する認識を持たせ、家庭内を指導する様に持つて行かねばならぬのではないかと。石垣 御説、御尤も存じますが現下の日本ではいわれる社會教育の現状から見ても、逆に兒童を通じて親父教育をしてゆく方が早道のように思います。一月選挙には、市内の各中小學校の協力を得て大變効果をあげる事が出来た。大人に對しては、むしろ今回の様に棄権者について個別調査をする事が直接、間接に啓蒙に役立つと思つたので、今後とも學童を通じての啓蒙宣傳や棄権防止と共にこの種の實地調査を選挙毎に續けて行く心算であります。山根 (大阪新聞) 學童からの啓蒙は非常に効果があつた。自分もひつぱり出された一人だ。(笑聲)

増田 投票所の位置の關係も相當影響すると思つた。森本 この表の理由別を見ると病氣、旅行、家事多忙というのが最も多く、年令別で見ると男女共に三十才以下の層に棄権者が多い。

矢島 三十才以下の婦人に家事が忙しいという理由が多いのは大体この年令層は日本の家庭の慣習から暇を作り出すことが出来ないのではないのだからか。

増田 結局、この層は棄権病にかゝつてゐるんだね。(爆笑) つまる所は、何れも、関心が薄いといふことになるね

石垣 ではこの邊で棄權防止對策について御意見を御願いた
します。

北口 旅行者に對しては不在投票が出来ることを周知さすこ
と、投票をし易くすることだれ。
佐々木 病氣その他不幸さの場合代人投票を認めるさか、
勤務者に對しては勤務先で選刻早退を認めなければならな
いといふことを法に明記して貰いたい。

◇移動式投票所に

山根 投票所について停留所附近に設けるさか、或は大型ト
ラック等を使用して移動式にすることはできないか。
石垣 投票所は出来るだけ有権者の便宜を計つて設けており
ますが、中々よい借上場所がないため苦心しており、移動
投票所については法規の改正を要求したいと思ひます。
佐々木 事務局の對策案について話して貰いたい。
石垣 勤め人には銀行、會社、官公署等の勤務先と密接に連
絡して投票證明書により選刻早退を認め投票を奨励する様
協力を求め、婦人層には業者の團體を通じ選舉に關
する認識を昂めて行きたい。なお従來とつてきました投票
清抽籤は止めて六月選舉の對策としては學校婦人會その他
組織ある團體に協力を願ひ、投票區毎に投票成績の競争を
して選舉意識の昂揚を圖るさうな方法をとりたいたと思



緑化運動に 寄せて

若屋警察組合警察署防犯課

由來泊山、治水に樹木が如何に大切であり、又大きな役割
を果たしているかは喋々するまでもなく、また一本の苗木が
成長する爲には數十年の年月を要する事からみましても、こ
れが事業は仲々一朝一夕にはその成果を期待する事ができな
いのであります。

廣い國內全般の事に就きましては兎も角、獨り當り屋市た
けに就いてみましても戦争前は窓から見える六甲山の背
山のあの美しく翠緑に映えて繁茂していた樹木が、終戦後僅
かの間に心なき人達の爲に濫伐され、その結果禿山となり如
何に殺風景さなつたか、もつとも戦時中焼夷弾による類焼も
見逃す事は出来ませんが、何れにしても以前を知る者にとつ
てその激しい變貌ぶりには全く驚かされるものがあります。

この嘆かわしい状態に立至つたその理由は色々ありましよ
うが、一言以つてこれを蔽えば、國民の森林愛護の精神が稀
薄さなつて樹木を愛する觀念が全然といつても真位無くな
つてしまつたからだと思ひます。
それは六甲山に限らず公園、空地等に生えて居る樹木や交

います。

◇實態調査を續けよ

北口 實態調査をすること自体が直ちに次回選舉棄權防止の
啓蒙、啓發となるから各町一巡するまで續けて行つて下さ
るのではありませんか。
森本 事務局だけで實態調査をすることは困難であるから、
各町毎に協力委員を設けその町の啓蒙や調査に協力して貰
うか、婦人會等に御願ひする様にして實態調査は是非續け
られたい。

石垣 ではこの邊で委員長さんから一つ結論を……
佐々木 結論として選舉啓發の第一段階は名簿調製、第二段
階は棄權防止宣傳、第三段階として選舉後の實態調査、こ
の三段階を細密に行つて行くことが必要で、選舉告不後泥
繩式に棄權防止を鳴り物入りでやつても効果は渺いから、
平常から啓蒙に留意して各種の會合にはつとめて出席し、
選舉に關する話を平易にして認識を深めて行く様になしな
ければならない。そして婦人層については婦人参政權の意義
を認識させること、無関心な者には民主政治は政治と生活
が直結しておることを具体的に理解させること。病氣旅行
等には特別投票の方法があることを徹底させること。當日の
選刻、早退には投票證明書をどうしと要求する様にするこ
と。一般の啓蒙宣傳には新聞、ラジオ等の報道機關を充分
利用すること等が目下の急務だと思ひます。

石垣 色々御意見を拜聴いたしましたして大變參考になりました。
どうも有難うございました。

通の大動脈である國道の兩側の美しい銀杏の並木にまで及ん
でいるのみならず、はつきりわかります。これに引換え、森
林の國北歐ノールウエー、スエーデン等に於いては樹木を愛
する觀念が非常に強く國民一般に徹底し例えは一本の樹木を
伐採する者は必ず代りの一本の苗木を植えることが義務さ
され、又一般常識として國民に實行されて居ると聞くのであ
りますが、由來一國の存亡興廢は多く國民の道義觀念の強弱
如何によつて左右されるのと同様一國の盛衰を知らうと思へ
ば、その國の山を眺めればわかるさ迄謂われて居ります。
即ち、山が禿山で樹木の繁茂していない様な荒廢した國の
國運は衰へ、反對に山の樹木が鬱蒼と生い繁つて居る國の國
運は必らず隆盛であるさ謂う事があります。
宜なるかな、西歴第十五世紀頃まで歐洲の強國として、
あれ程驕威を振い隆盛を誇つたイスパニヤは、現在は如何で
じようか。

フランコ統領のもさ今次大戦にも中立國として戦争の痛手
を蒙つていないさは謂え、スペインは、有名な禿山の多い國
であり昔日の様な隆々たる國運發展の面影は、も早見する事は
出来得べくもありません。
この事は例を遠く歐洲にさらなくてもお隣りの韓國の禿山
の多いのをみても疑知する事が出来るのであります。
翻つて更に我が國のそれをみるに、太平洋戦争前までは一
般に國民の樹木を愛する觀念が強く、松食虫等の害虫驅除の
爲に自發的に小鳥の巢箱を設置し、又は諸種の山林愛護運動
が屢々展開され、國內の山林を荒すものは、害虫と登山者の
不注意による(煙草の吸殻焚火等)山火事位のものでありま
した。

然も此處に注意を要するのは、當時有名であつた六甲山の山火事等は勿論その多くが登山者の煙草の吸殻や焚火の火の不始末からではありましたが、その中には乾燥季における繁茂した樹木の摩擦による自然発火的山火事も又よくあつた事でありました。これを反面から考えますならば事程左様に樹木が良く繁茂して居つた證左であり、最近に於ては、この様な事例を聞いた事がありません。

終戦後各種の原因による社會的混亂により國民の一般道義心の頽落と燃料難の爲の一部の人々は争つて市町村有林、國有林の區別無く、又枯木の落ちた枝と生木、立木の見境なく伐採し自家消費用だけならまだしも、中には伐採して家に持歸つたのを新として販賣する様な悪質者もみるに至り、この處放置すれば常芦屋市に於ても青山は全部荒山となり、沿山治水の面からも、又風致地區としての面目からも、由々しい問題として識者の關心を惹くるに至り、當署に於てもこの観点から放任する事なく事ある毎にこれが取締に當つて来たのであります。その状況は別表の通りで眞に遺憾に堪えません。

市當局におかれましても、昨年五月の全國緑化運動の際には、この期間を有効に利用し、學童による植林を積極的計畫實施される等々その實を擧げられたり、あることは、これ又市民として喜びに堪えないところでありますが、まだ今日まで文化國家の建設を稱え乍ら裏では國家社會の公共の利益を平氣で蹂躪するもののあることは洵に残念で、これ等の不徳義漢に對しては斷乎として鐵錘を下さねばならないと信じます。

全國の山林二四〇〇万町歩、森林資源四十三億圓のうち、年々三十四億圓の消費が爲されている現在、國家的な見地より

虚偽の宣傳を見破る理智



前號續き
四、宣傳の手段

高度に發達した近代宣傳術の内最も一般的な宣傳手段は新聞、雜誌、ラジオ、その他ポスター、リーフレット、映畫、講演等で、今迄最も廣く利用されているのは前掲の中でも新聞である新聞は輿論の忠實な反映であるべきだが、余りにもしばしば輿論を捏造するために役立つていた。

新聞が宣傳機關として重大な價值をもつているため、それを利用して買収するものは巨額の金を費つて新聞を買収しようとするか、さもなければ自ら新聞を發行しようとする。或る政黨によつて經營され、そのことが明かに一般に知られているときは大した害はない。さういふのは讀者はそのことを承知で讀むからである。然し、もし宣傳が新聞を通じて巧妙に行われ、その新聞

りしても、今にして植林の對策を講じなかつたならば、十年後は如何でしょうか。

全國の山が荒山になつてしまふのではないかと愛するものもあながち思い過ごしは謂えないと思ひます。積極的に植林の時間と余裕がなければ、消極的に樹木の盜伐は勿論、せめて花見時の枝折りの惡習慣だけでも今後改めたいものであります。

そして美しく緑の山々を觀光都市常芦屋の誇りとしてお互いに楽しみたいたいものです。

市民の皆様、國家百年の大計を色彩つてくれます樹木を今後益々大切に育成してゆこうではありませんか。

一齊取締並に檢舉調

(1) 昭和二十四年中

一齊取締回数 三月、六月、九月、十二月

(2) 檢舉數

月別	區分		新丸太數量	物件處置
	説諭	送廳		
三月	十七件	七件七名	新 一五九貫 丸太 三六本	被害者に還附
六月	八件八名	四件四名	〃 一四三貫 〃 六一本	〃
九月	十三件	八件四名	〃 一三九貫 〃 三九本	〃
十二月	十五件	六件六名	〃 一三六貫 〃 一六本	〃
計	五十三件	二十五件	新 五七八貫 丸太 二五二本	〃

元兵庫民事部 民間報道課編

の政黨色が隠蔽されて普通の新聞と判別が困難な場合には、却つて國民の思想に大きな影響を與へ、また他の多くの新聞が買収されたときには、その効果は更に大きい、こういう風に外觀上は民主主義であつても實際は金權政治が横行しているのだ。諺に、「金は總ての門戸を開く鍵なり」というのが、あるが、もし絶対權力をもつて金が輿論を支配し得るさしたなら、そこには最早民主主義はあり得ない。

新聞發行の費用の大半が往々にして廣告であらなれるとすると、會社は只紙とインキ代位で新聞が發行されるこのことは新聞廣告の有効な宣傳機關として驚くべき價值をもつていることを暗示する。廣告でさえこれ程の効果があるのだから、況んや實に面白い記事が素張りらしい寫眞を添えて魅力的な文体で掲載されたら、その効果は更に大きいだろう。

大見出しをつけて載つた記事と目立

たない場所に掲載された同じ記事とを比べるに、全く違つた印象を吾々に與へ、また、新聞は無根の事實によつて人を中傷することも出来る。たゞ新聞が後々になつて小さな訂正記事を掲げたとしてもその人の名聲を永久に消してしまふことになる。新聞は斯の如く輿論に對して強力な力をもつているから、新聞經營の社會的、政治的責任の重大さは幾ら強調しても強調し切れない。

また斯くの如き情勢下では新聞は偽りを公表することが往々あるとして、こういう悪用を判定し防止するために嚴格な政府の檢閲を加えたらどうだろうか。さういふ質問は自ら湧いて來る質問だが、然し、檢閲は更に大きな災いを招來する。何故なら、政府からこの權力を使つて政府の政策に不利な記事やニュースを抑制して、ひたすら政府に都合のよい記事だけを公表するから、國民を盲目にし政府に宣傳機關の獨占を可能ならしめる最も危険な方法だ。

同じことが雑誌や他の定期刊行物についてもいえる。多數の發行部數をもつている雑誌は宣傳機關として大きな

價值があるから、雑誌社の費用の相當額はまた廣告によつて賄われる。更に面白いのはラジオで、日本では全ての放送局は一つの放送協會によつて支配され経費は聴取者の聴取料によつて賄われるからラジオは廣告機關として使はれないが、アメリカでは六百以上の私設放送局がある。東京の半分位の都會でも多くの放送局があり、夫々違つたプログラムを提供してお互に競争して一つも聴取料をさつてゐる處はない。經費は總て放送中に折込む廣告から得られる収入によるわけである。

従つて民主國家では言論と刊行の自由が強く保證されている。それは國民に政府の政策を批判する機會を與え、不正に對しては公然と抗議出來得るのであつて、この自由が存在する限りは政治的不満が直接行動の形で勃發する危険が殆どない。然し、もし政府が危険と思ふ思想を抑壓すると、さういふ思想は止むを得ず地下に潜り、次第に成長する不満と不平を醸成して、遂には政治的、社會的不穩事態に導くおそれがある。この根本の原則は政府の輿論によつて導かれるさういふことで、政府が自分の望む輿論をでつちあげると

のナマズが怒ると地震が起ると信じていた。自然科学進歩の第一歩はさういふ迷信や偏見を取り除くことで極く最近でも、日本人は一方で困難な戦争をしていながら、神風が吹くだろと信じていたのである。彼等は最高司令部の發表には誤りはないものと信じていたのだから、何が危険だといつて、さうした先入觀的見解位の危いものはない。科學的政治思考の第一歩は總てさうした偏見を政治的判斷から抹殺することである。(2) 次に我々は報道の出所を確めることを擧げなければならない。總ての見聞を無條件に信じることは單に馬鹿げたことだけではなく、危険でもあるわけだ。常に自分の心の中に自問自答する必要がある。「誰がそんなことを言つたか、書いたか」「その人はこんなことをいふ丈の資格のある人が否か」「彼らに偏見はないか」「尤もらしい言葉の背後に何か利己的な動機はないだろうか」さういふことを自ら質問することがものごこを科學的に考える助けとな

民主主義の精神を踏みにじることに

だから、政府は眞實の上にならなければならない。自由な討論こそ眞實をもたらす民主主義の根本原則で、今、AとBさういふ二人の候補者が同じ地位を争つてゐるとして、彼らは自由に各々の立場を論じて宣言によつてAが國民の想像力を利用して選舉に勝つたとする。そのとき、もしAの宣傳が事實に立脚してゐないとするれば彼の勝利はどれ程も長續きしないだろう。萬一國民が眞實を發見する能力がなかつたなら、Bは永久に不遇であるかもしれない。然しその反對に國民がそれを見分ける力があつたらAの人氣はやがて衰え、Bが多數の支持者を得るに至るであらう。否、國民が眞に政治的に聰明であるなら、初めからAの宣傳に乗ぜられはしないのだ。

従つて言論の自由な社會にあつては眞理を發見する唯一の方法は、國民が自覺した投票者になることである。自覺した投票者こそ、最も確實な虚偽の識別者であり、國民が聰明であるなら新聞も眞實だけを報導する様になるわけだ。何故なら明かに偽りの記事を載

る。

(3) 新聞や雑誌をよむとき、心に留めておかねばならぬことが幾つかある。A その社説をよんで出来るだけ早く一般概念を掴むこと、即ち保守的か、自由主義的か過激的かを判斷すること。

B 演説や記事の傾向が判つたら直ちに反對の見解の時の記事をよみ自身でどちらが正確に近いかを判斷すること。

C 安易な記事を載せてものゝ見方が普遍でない讀者の関心を買おうとしていないか、中傷記事を墮してないかどうかを判斷すること。

D ヘッドライン(見出し)の本質的な意味と効果について記事の内容と比較すること、たゞ記事そのものが眞實であつても、全く人を誤らせる様な大げさな見出しがあるかもしれないからで單に見出しだけをよんで早急に結論してはならないこと。(4) ラジオや新聞では毎日國際問題が非常に注目を惹いてゐる現今では國內問題といへども不可分の國際問題と關聯してゐるので、われわれは常に世界の進展についてゆかねば

せる新聞は賣れないからである。こればかり國民の正しい批判に打ち勝つ事が出来ないため、新聞や雑誌やこれと同様の宣傳機關は眞實の輿論を反映するから政府は自然自ら正しい方向に導くに至るのである。

五、報道科學的研究

眞理を求めるときは科學の使命で、虚偽を識別し、宣傳と眞實を見分けるためには、吾々科學者が眞理を追究するのさ全く同態度で、新聞、雑誌、メンフレット等によつて與えられる報道を冷靜に考えねばならぬ。

(1) 科學的にものを考えるにはまづ自身總ての偏見を除去する必要がある。過去の環境の經驗、即ち子供時代に見聞した事や、感心して讀んだ本から學んだこと、その他色んな要素から學んだ集積から割出す一方的な考えに慣れつており、又その方向に照して物を判斷する習慣に陥る。さういふ態度は或る時は正しいが或る時は誤つてゐる。われわれが一步踏み止つて我々自身の偏見を反省しなければならぬ。

昔は風神が風を起すさ信じ、地下

ならぬし、その最近の傾向や意味合いを正しく理解して居なければならぬ。戦前の日本は民族の優越感に惑溺して他の國々が日本の行動をどう思つてゐたかを全く考慮に入れていながつたのである。これからは日本の國際間に於ける地位について常に留意して、國內問題もその源に社會にあつては國內に於けるよりも宣傳が直接的で而も熾烈でありまた支配的でもあるので、色々な要求を提出したり議論してゐる國々の眞の目的を判別することは、實に我々の責任である。よつて厳しく完全に統制されてゐる國々に關しては更に大切である。

(5) 社會の諸問題は複雑で、一つの問題の一面だけを捕えて議論することには常に無益で普通の場合危険だ。誰かがあることに斷定を下したら、その問題の他の面に就てどう思ふかを質問してみるのがよい。宣傳されたことを讀み聞くだけでは充分でなく、われわれは研究的で疑問をもつ機會をもさめねばならない。時々公聽會を催したり議論したりすること

は非常に利益があつて、學校では最近の問題に關して全ク
ラスの集合で討論會を催すことが望ましい。研究會を開く
時には互に對立する意見の人々を歓迎すべきで、これは科
學の實驗と類似して居り、幾つかのテストを行い、他の研
究の結果を討論して、誤りが段々指摘され、遂に共通な眞
理が発見され認識されるのである。もしみんながものごと
を科學的に觀察する習慣を養うならば、民主主義下の市民
の義務を遂行する上に大變役立つだろう。

これを要約すると、民主主義とは個人個人が政治的に理
智的になる必要があり、もし國民が賢明になつて科學的に
ものを考えるならば虚偽の宣傳は容易に見破られ、その結
果無責任なことはいえないことになる。

よき理智、眞理を愛する心、明瞭な眞實を是非守る正し
い覺悟をお互に尊重し協力し合うところに、眞の民主主義
國家建設の礎がある。



文化都市芹屋を更に意義づけ價值づけ
るため、昨年五月發足したわが市立圖書
館は、その後藏書の整備も次第に進捗し
利用者の數も日を増やして増加するとい
うありさまで、新時代の社會教育機關と
して、漸くその機能を發揮するようになつ
て來ました。ついでにはここにその概況を記して、健實に成長
して行く圖書館のすがたを理解していただくよすがとしまし

て、圖書館人として當然なすべき奉仕を考えられるのであり
ます。

一、利用者の現状 閱覽者は、平日には兒童室及一般
室共に平均約三十名ですが、土曜・日曜となりまして、兩室
とも七十名にも達します。ところが、その収容量を見れば、
兒童室が約九坪で収容人員は三十名、一般室は約十二坪でそ
の収容人員は約二十五名位です。従つて閱覽者多數の際は
文字通り超満員で、立ち讀みをする者、室外に溢れる者、中
にはやむなく歸つて行く者もあるという状態であります。

一、圖書の寄贈 積極的に圖書の寄贈をお願いする運
動はまだ起きていませんが、圖書館設立の趣旨に賛して、す
でに貴重な藏書や新刊書を御寄贈下さつた篤志の方は左の通
りであります。

- 和崎嘉之氏、冷い戦争他一四冊。
- 澤美奈子氏、實踐倫理學他一〇冊。
- 有賀鐵太郎氏、支那革命史他五五冊。
- 西本珠夫氏、南洋地理大系八巻他一六冊。
- 佐々木清次氏、世界大思想全集六〇冊。
- 村井陽一郎氏、支那文學選他三〇冊。

その他、細川久吉、熊田種次、寺田勝彦氏等からも數冊づ
つ寄贈がありました。特に多木良勝氏からは藏書の他、新
刊の波多野精一全集五巻をはじめとして、カロツサ全集及辻
善之助著日本文化史全集の寄贈があり、なお將來毎月新刊書

よう。

一、圖書の整備 圖書の分類は、日本十進分類法(M
・D・C)の最新改訂版によつてなされ、カード目錄の作成
も着々その數を加えていますから、一般閱覽者がカード目錄
による快適な閱覽も、日ならず完全な實現を見ること、思
います。そして又、目錄法に準據した基本圖書も追々その數を
増し、從來の文科方面の圖書の充實と相俟つて、公共圖書館
としてその面目を次第に整へつゝあります。又近く運動競技
に關する貴重なコレクションの受入が約束されていますから
實現の曉は當圖書館に更に一特色を加えて、その利用價值も
大いに高まることでしょう。

一、圖書の閱覽 閱覽室は、兒童閱覽室と一般閱覽室
の二つに區別してあつて、兒童閱覽室は開架式で、書架に陳
列した書物を自由に選擇閱覽することができるようになつて
いますが一般閱覽室の方は非開架式で、目錄によつて請求閱
覽するようになつています。この方は目下カード目錄が一部
未完成ですから、希望圖書を出納係に申出られたらよいこと
になつています。

なお火曜日を除いて、日曜日も開館してありますから精々御
利用していただきます。殊に學校圖書室の完備しない現況に
鑑み、兒童・生徒たちの學習輔導のため、讀書指導にはでき
るだけ力をいたしています。これは公共圖書館本來の使命と
しては餘分な仕事とも思われますが、現在の社會情勢から見

寄贈の約をしていただいています。

一、C・I・E圖書館との連絡 神戸のC・I・E

圖書館とは昨年から連絡して圖書の寄託をうけ一般の閱覽に
供しています。將來圖書館が獨立して建設されましたら、こ
の方面の設備も更に擴張されねばならないと豫期しています
(芹屋市立圖書館)



近隣兒童公園

土木課長 西村清三郎

都市が大きくなり建物が立体的になつて人口
が稠密になればなるほど都市内に空地が必要である事は今更
云う迄もないことだが、兒童の身心共に健全な育成のため
に自由な遊び場を造ることは殊に急務である。

ヨミ／＼した露路や交通のはげしい表通りなどで遊んで居
る子供たちのために適當な廣さの公園を興え度いとは、誰し
も考える事だろう。キャッチボールも出来ればブランコや滑
台もあり、プールもあれば芝生もある思う存分はれ廻つても
叱られない、そして正しく明るく健康に育成して行きたい。

昭和二三、二四年度中に全國都市で造成された兒童公園は
五百ヶ所に近く、その面積五〇萬坪以上と大きく、

吾が芹屋市に於てもさし當り、戦災地に二、三ヶ所計劃を

進めている。あらゆる困難と障害は斷乎これを排除して完成する心算である。

補導員會を終えて 社會教育課

市内の各小學校毎に、その校下の補導員並に學校當局、警察署、市教育室の各關係者、更に兒童生徒の代表者等數十名が一室に會して、兒童生徒の切實な希望事項を中心に、これを如何にすれば實現出来るか、又警察側から眺めた最近の青少年の傾向、各補導員達の兒童生徒に對する種々の情報等、愛護善導を目標に時の過ぐるを忘れて熱心に話し合い極めて有意義であつた。

此の會合の中で兒童生徒の要望事項又は問題となつた事を羅列して市民の皆様の御協力を乞う。

- 一、補導員會を強化しましょう
- 二、よい運動場を造つてほしい
- 三、よい圖書館にしてほしい
- 四、悪い書物を排斥しましょう
- 五、危険な遊び悪い遊びをやめましょう
- 六、小遣錢を持たないようにしましょう
- 七、商人の紙芝居を禁止してほしい
- 八、學校毎にバツヤをつけましょう
- 九、他校生と仲よくしましょう

一、水道の検針期および告知書發行日納付期日は左の通りであります。

(別途に定められた物を除く)

區別	月別	検針日	告知書發行日	納付期日
第一期	四月	五月中旬	六月十二日前後	六月二十五日
第二期	六月	七月中旬	八月十二日前後	八月二十五日
第三期	八月	九月中旬	十月十二日前後	十月二十五日
第四期	十月	十一月中旬	十二月十二日前後	十二月二十五日
第五期	十二月	一月中旬	二月十二日前後	二月二十五日
第六期	二月	三月中旬	四月十二日前後	四月二十五日

笑う ● 結核菌太 衛生課

マコトーツベルクニンって知つてるかい？
みどりーえ？ツベルクニン？ええと聞いたことあるような気がするわ……

マコトーツベルクニンじゃないよ、ツベルクニンだよ、ばかだなあ。

みどりーああツベルクニンーあらうそよ、ツベルクニンじゃないくて？

マコトーあつそうだ、ツベルクニンさ、さつきからぼくそいつてるじやないか！

みどりーツベルクニン反應つて、あの腕のこに注射するさ小さなお豆ができて、あさで赤くはれるんでしよう。

マコトーそんなことさつまつてないよ。ぼくなんか赤くはれなかつたよ。みどりーちゃん肺病だから赤くはれたんだ。

みどりーあらうそだわ。赤くはれる方がいいのよ。だからマコトーちゃんはBCGの注射をされたじやないの？病氣だか

一〇、青少年の不良化には成人に罪あり、猛反省しましょう

量水器點檢表復活 水道課

一、資材その他の都合上永らく中止して居りました、量水器點檢表を二十五年より復活致しまして検針の都度その期の御使用量を記入してお渡しする事に致しました。

一、この點檢表に據つてその期の御使用水量と従來の水量とを比較して戴きまして御不審の点がありますれば直ちに御申出下さい。

一、水道使用料を納期迄に御納めして戴けない方が見受けられ事務處理上に支障を來して居ります。必ず納期迄に御納め願います。料金を他のにつき御問合せの事項は納期迄に水道課へ御越し下さい。

一、係員の皆様に對する態度について御不満な点もあると思はれます。特に検針、修繕等に御家庭へ御伺い致す者について、そう云う場合もあると思はれますが、皆様の輿論と御支援に依り漸次改善して行き度いと思存します。御氣付の点は水道課迄御知らせ下さい。

一、水道は單にお役所の水道ではなくて皆様御互いのものであり、お互いが氣をつけて水道を愛し生命の水を守りたいと思存します。

らよ。

結核菌太ーへへ聞いてちやいられねえや。二人ともでたらめ言つてらあ。あれだからぼくの忍術にかなわれえんだ。ぼくがこつそり人間の体の中に忍びこんだつて誰にも分りやしないんだ。だけツベルクニン注射だけは降参だ。あいつをやられると必ずよつぱらつちやつて、正体が現われちゃうんでなあ。

☆結核菌が人間の体にうつるさ(感染)ツベルクニン反應で赤くはれます。でも、赤くはれたからつて、病氣だとはきまつていません。病氣だかどうか、レントゲン検査で確かめましょう。

☆ツベルクニン反應で赤くはれない人はまだ結核がうつつていない證據です。急いで豫防注射のBCGをして免疫をつけましょう。

一、塵芥の蒐集についで

市衛生課では二十五年より市内の一地區(地區未定)に對して塵芥の完全戸別蒐集を實行すべく計畫中でありすが地區決定いたしましたら發表いたしますからその地區に居住の方々には此の計畫に御協力下さるよう前以てお願い申して置きます。

二、衛生關係の御注意についで

最近市衛生課の名前を使つて各家庭いろいろの事を要求して居るウツサが衛生課に舞込んでいますが衛生課が行う場合は揭示板に告示するか又は證明できるものを必ず所持していただきます。事前に人物をよく調査してから處理して下さい。なお御不審をいだかれた時はその人物服装等について時を移さず市衛生課に連絡して下さい。特にお願い申します。

編集後記



本誌は昨年夏創刊以來隔月刊で第五號を數え、次號からは月刊建として皆様にお目見得することに成りました。

長いあいだの懸案がやつと叶い、あたかも窓をあけて青空を仰いだような清々しい氣持がいたします

小冊子ながら、發行日だけはようやく一人前になつたわけです。今後ほうんと馬力をかけて編集し、學生徒諸君の社會科副讀本としても役立つものになりたい。また、市民各位は必ず一冊お手許に置いて戴くようせいぜい皆様がたの御宣傳をお願いいたします。

月刊建になつたのを機會に、固定讀者を募ります。半年分(六冊)で

わづか九十六圓(送料とも)です。一冊十圓というさ餉王二箇の値段です。あまり、安すぎて恐縮のようないたします。

本誌には、遺族の御好意により會下山人の遺稿「郷土史話」芦屋の漢人」を掲載いたしました。なかなか得がたい、貴重な文献です。氏が郷土史家として、令名の高かつたことは、あまりにも有名です。

早野臺氣氏の「芦屋の名所を探る」は、前號の續きですが、彫心鏤骨の傑作です。おそらく後世にのこる立派な文献であらうと編集者は内心自負してをります。

「選舉棄權者實態調査座談會」もなかなかの好資料です。このような座談會記録を御計畫になれば、出來

るかぎり紙面を割くつもりです。

「阿保親王の御事績(生田嘉作氏)」も讀みごたえのする文献です。

市民の聲欄にも、相當スペースを割く考えです。どうか、忌憚のない聲をお聴かせ下さい。(松岡生)

あしや 第五号

毎月發行 頒價 十円 送料六円

送料共 半年分 九十六円

昭和二十五年四月十日印刷

昭和二十五年四月十五日發行

編集人 松岡正夫

發行人 猿丸吉左エ門

神戸市生田區榮町二電停前

印刷所 協同印刷

芦屋市精道町九三

發行所 芦屋市役所

外科

整形外科・放射線科

伊藤外科病院

省線芦屋北驛前
郵便局ノ角上ル半町
電話 芦屋 4040番

産婦人科

外科・内科

松永醫院

省線芦屋驛南國道下
甲陽市場北辻東入ル
電話 芦屋 5035番

御休憩に・御宿泊に

お氣やすく＝ご利用下さいませ

旅館 有明

阪國芦屋森市場南へ入る

電話 芦屋 2653番

スカツとした

清楚な

お子さま服

奥さまお嬢さま

お子さま方の店

チグサ

神戸・中山手通一

TEL. 葺合②四三四番

至県广前

線手山

場留停目丁一手中

至加納三

山手 東

生田神社 开

广県至

道新田生

宝三急阪至

昭和廿五年四月十日印刷
昭和廿五年四月十五日發行

芦屋市公報 あしや 第五號

頒價拾圓